

特別支援教育

小 吹 耕 平

1 テーマについての考察

教員として9年目である今年度、初めて特別支援学級の担任になりました。当初の在籍は、1年生1人、4年生2人、6年生1人の4人学級でありましたが、現在は3人増え7人学級となっています。また、通常学級にいながらも、なかなかクラスに入れない子どもたちも受け入れることがあり、本学校において、特別な支援を求める保護者や子どもたちが多いことがわかりました。全国的に見ても、特別支援学級の児童数や学級数は増加傾向にあり、特別支援教育の需要が高まっています。その一方で、特別支援学級の教室や支援員の不足、私のように免許を保有していない専門性の不足など、供給が追いついていない問題も挙げられます。



また、今年度特別支援学級の担任をして感じることは、実践や取り組みに関する情報が少ないと感じました。初めて担任をする自分にとって、参考にする情報が少ないことは不安でいっぱいでした。近隣の学校に教室を見学させてもらったり、お話を聞いたりしてなんとか学級をスタートさせたことを思い返します。担任になってはみたものの、どうしたら良いかわからない。実践してみてもこれで良いのかわからないような状態でした。

2 具体的な取り組み

そこで今年度は、参考にできる情報が少ない中でも、特別な支援を求める児童が安心して過ごし、少しでも自信をつけて成長できる学級づくりをしていけるよう、以下の2つの取り組みをしました。

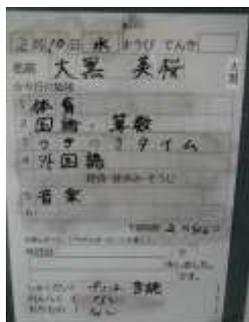
1つ目は、児童が安心して過ごすことができる環境づくりです。学級の子どもたちが、見通しをもてること。気が散ることなく集中して学習や作業ができるようにすることを意識しました。

○見通しがもてる手段として

その日の予定の掲示板を作り、いつでも児童が確認できるようにしました。そしてその予定を見ながら、自分自身の予定をプリントに書き、1日の流れを把握しやすいようにしました。また、1週間の予定までわかるようにし、見通しがもてるようにしました。



(今日の予定)



(個人の予定)



(1週間の予定)

○集中して学習に取り組める工夫として

物が散らからず整頓しやすいように、自分のボックスやイラストで住所を作りました。また、目に入ってくる情報を抑えるように工夫しました。どうしても心が乱れてしまった時のために、心を休ませる空間を作りました。



(個人のボックス)

(イラストの住所)

(棚の目隠し)



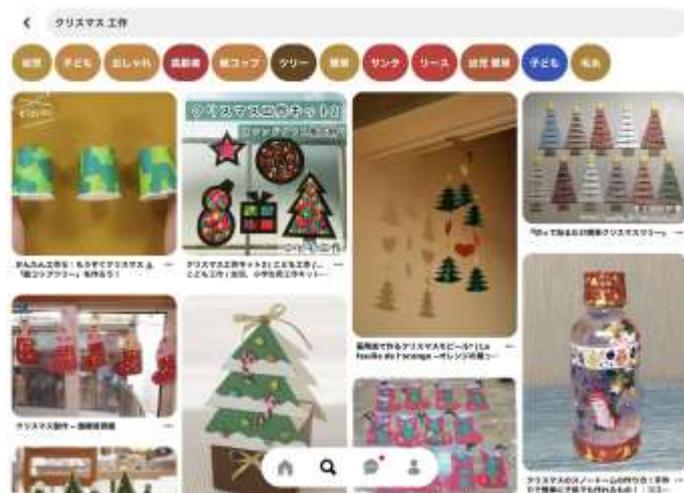
(教室後方の心を休ませる空間)

2つ目は、児童の「やりたい!」という気持ちを形にすることです。特に、図工や生活単元学習に力を入れて取り組みました。日本特有の季節が感じられるような単元を組んできました。廊下に、毎月の季節の装飾をしたり、夏祭りやハロウィン、クリスマスパーティーなどを子どもたちと計画し、形にしてきました。

しかし、最初に述べたように、特別支援教育の実践を見つけることが難しく、どんなものを作ったら良いか、どうやって作ったら良いか非常に苦しみました。そんな時に役に立ったのが、「Pinterest（ピンタレスト）」というアプリです。キーワードを検索すると、様々なアイデアを発見することができます。このアイデアの中から、子どもたちに選んでもらったり、子どもたちにあったものを自分が選んだりしながら子どもたちの「やりたい」を形にしてきました。今年度、とても活躍してくれました。



(アプリのアイコン)



(「クリスマス 工作」で検索)

3 成果と課題

今年度、初めて特別支援学級の担任をやり、上手くいかないことやわからないことばかりでした。

今回の実践を振り返り成果だと感じたことは、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりをしたことは、子どもたちの生活しやすさが上がるだけでなく、教師自身の生活のしやすさも上がるということです。子どもたちが、安心・安全で見通しがもてることで、自分自身で活動しようとし、教師は見守る時間が増え、余裕をもって子どもたちに接することができます。また、児童の「やりたい!」という気持ちを形にすることで、学習に取り組む意欲が向上し、できたときには、子どもたちの大きな自信へとつながりました。たくさんの「やりたい!」を形にしたことで、子どもたちとの信頼関係も築けたと感じています。

今回の実践での課題は、行った実践が全ての子どもには当てはまらないということです。様々な課題を抱えている児童がいる教室であるため、合う環境・合わない環境が必ずあります。また、やりたいこと・やりたくないこともそれぞれにあり、教室にいる全ての児童に当てはまることは難しいということがわかりました。それでも、少しでも全ての児童が過ごしやすく、安心して学べる環境を考え、作っていくことが大切であると感じました。

4 新たな教育に向けての提言

特別支援教育に今年度初めて携わり感じたことは、特別支援教育は、教育の根底にあるということ。個々に寄り添った教育が大切であるということです。通常学級から、特別支援学級になった今年度だからこそ強く感じます。通常学級にいた時に、今年度のような支援が少しでもできれば、もっと成長させられたかもしれないと考えることが多々あります。個々に寄り添い、その子にあった教育をしていくことの大切さを学んだ1年になりました。これから、通常級であっても、特別支援学級であっても、個々に寄り添った教育を大切にしていきたいと思えます。